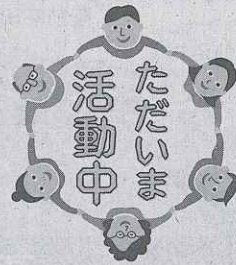


細井さん(右)、小野寺さん(右から2人目)と月1回程度集まるメンバーたち(横浜市戸塚区で)

# ウェルカムベビープロジェクト

(事務局・横浜市戸塚区など)



紙おむつを自販機で買えたらいいのに……。子育て中の親が思いついた斬新な発想を、NPO法人や企業などが参加する民間グループ

# 紙おむつ自販機でも

「ウェルカムベビープロジェクト」(事務局・横浜市戸塚区など)が実現させた。3年ほど前に、同区内に紙おむつが買える飲料の自動販売機を初めて設置。

2019年12月には、千葉県松戸市の大型商業施設に30台目を置くなど、活動を全国10都府県に広げている。

同プロジェクトは、子育て支援に取り組み認定NPO法人「こまちぷらす」(横浜市戸塚区)と、ヤマト運輸神奈川主管支店が、市のマッチング事業をきっかけに、2016年4月から活動を始めた。

自販機のきっかけは同年、横浜市港南区の池田浩久さん(42)が同プロジェクトの準備期のワークショップで語った一言だった。当時、3人の子どもを育てていた池田さんは、紙おむつを忘れて外出し、店をみつけれず困った経験があった。やっと店を見つけても大きな袋でしか売っていない。「おむつの入った自販機があればいいのに」。

この話に、同法人の森祐

紙おむつと飲み物が出てくる自販機(寒川町の寒川総合体育館で)



美子理事長(37)がすぐに動いた。参加者で、後にプロジェクトのメンバーになる東京キリンビバレッジサイビス鶴見支店の小野寺剛課長(38)と、花王の生活者研究センター職員に相談。だが、「自販機に入れられる外袋の形を考えないといけない」「おむつと飲み物をいっしょに売るのはいいかなものか」と、次々と課題が浮上した。

それでも、3歳と0歳の子育てに取り組み小野寺さんは「人ごとではない」と

地域みんな子育て  
れ、昨年度までに1500個以上を無償で届けている。プロジェクトリーダーを務めるこまちぷらすの細井綾さん(41)は、「お母さんは、赤ちゃんが電車の中で泣いても『すみません』と謝ることも多く、孤独になっていると感じる。子育てを応援していることを形にして、笑顔が広がる社会にしたい」と話した。問い合わせは同プロジェクトの「こまちぷらす」の事務局(045・443・6700)へ。

ウェルカムベビープロジェクトは、地域みんな子育てに取り組む社会を目指す民間プロジェクト。有志の組織や個人、企業などが参加し、2016年度から戸塚区で「出産祝い」を贈る取り組みを続けている。18年度から鶴見区にも広がった。地域の人たちなどが1針ずつ縫ったお守りや、賛同した企業や地元商店などが用意したウェットシートなどをお祝いメッセージと共に箱に入

あきらめなかった。飲み物と紙おむつの取り出し口を分けた自販機を10か月かけて完成させ、MとLの2種類を用意し、価格を手頃な各200円(2枚入り)に設定した。使用後に入れる袋や除菌シートも用意した。

戸塚区内の大型商業施設に1号機を設置すると、「オムツを忘れた時に助かった」「外出時に2枚ずつ持って行けるのは便利」と評判に。商業施設だけでなく、寒川総合体育館(寒川町)

や大阪国際空港などにも設置され、1台あたり月10、20セット、多いもので月50セットが売れた。

今では子どもが3人に増えた小野寺さんは「子育ての大変さを知っているからこそ、同年代の力になりたかった」と振り返り、4人の父親になった池田さんも「声を出して良かった。ちょっとしたアイデアでも、赤ちゃんを連れて出かけやすくなり、うれしい」と話した。

(鈴木伸彦)

## 神奈川市況

(単位:円)

枝肉	10日(単位円)			神奈川市況		
	高値	安値	平均	横浜	平塚	小田原
【東京・芝浦】						
豚	593	543	568	108	97	130
上	642	460	540	110	77	108
中	588	408	475	97	55	324
並	550	356	443	82	55	440
等外	454	326	369	648	562	648

叙位叙勲(10日)  
政道氏(元奈良良教育  
平塚市千石河岸)12

防衛省人事(10日)  
司令部勤務 海上幕  
運用支援課 1海佐  
潜水医学実験隊実験  
衛医科大学校教授兼  
1海佐 伊古美文隆

だが、一つ一つがあるという認識だ。(支援を)化も機敏に受けく。揺れ動く人ちつとケアでき気持ちは持たない」